

海事教育を世界へ
～メキシコ日本人学校でオンライン出前授業を実施～

当協会では、海運をはじめとする海事教育が学校授業でより多く取り上げられるよう、船舶・海事施設の見学会、出前授業や各種資料の提供など広報活動を実施しております。この度、メキシコ日本人学校の5年生14名、6年生14名を対象に、海運についての出前授業をオンラインで実施しましたので、その模様をお知らせいたします。

同校には、当協会はじめ海事諸団体等が作成した海事資料一式を送付しており、同校の児童がそれら資料に興味を示したことが、今回の出前授業の実施に繋がりました。

授業では、まず、海運の概要について説明したうえで、日本やメキシコにおいて海運が日々の暮らしに重要な役割を果たしていることを紹介しました。加えて同校が授業に先立ち現地自動車工場を社会科見学で訪れていたことから、自動車部品や完成車の輸送について、動画も交えて説明しました。さらにコンテナ船による輸送について、クイズも取り入れ説明したところ、多くの児童が興味を示し、積極的に答える姿が印象的でした。

また、航海士や機関士の職務内容についても紹介し、船内コミュニケーションは英語であることや、船員の生活の場でもある船内でのレクリエーションについても紹介しました。



質疑応答では、「北極海を船で通れると聞いたが本当か」「クレーンでコンテナを運ぶときに落ちたりしないのか」「船で働いている人は増えているのか」「未来に向けてどんな取り組みをしているのか」といった質問に加えて、現在、水不足問題を抱えるパナマ運河の概要について「建設期間はどれくらいかかったのか」「パナマ運河を通峡するのにどれくらい時間がかかるのか」等たくさんの質問があり、丁寧に回答しました。

当協会は、海運をはじめとする海事教育が、国内外問わず学校授業でより多く取り上げられるよう、引き続き広報活動に注力してまいります。